

山幸橋から高雄

京都府山岳連盟トレイル委員会



標識北山 56 トレイル入口



旧標識北山 57

落雷で全焼の標柱



標識北山 58 雲ヶ畑古道



一の橋



盗人谷三の橋

氷室を経て高雄へのトレイルコースは、山幸橋の標識北山55から雲ヶ畑街道（大岩街道）を横断し、対面の標識北山56の階段を登る。

民家の裏に回りこむように進むと、ルート右側が深い崖となっている場所がある。整備はされているが注意して歩こう。

標識北山 57 標柱は直進せず、折り返すように左折し林間の道を登る。（この標柱は林間の谷間にあるのに、平成 23 年 1 月、周囲の樹木には焦げた痕跡も無く標柱のみが全焼した。直撃雷らしい）

杉林を抜けると周囲が開け、害獣除け電気柵は設置されているが放置された畑が開け、畑の中の道を進むと標識北山58 のT字路で左からの道と合流する。

現在では踏跡も確認できないが、現在の雲ヶ畑街道（大岩街道）が開削されるまでは、T 字路を直進し左手の谷を降りるルートが、平安時代からの歴史ある雲ヶ畑岩屋山志明院への参拝道だった。

この古道の登り口を車坂といった。都の堂上人、高貴な姫君が岩屋山志明院への参拝する折は、都から車坂まで牛車に揺られ車坂からは輿に乗ったという。

志明院。正式名称は岩屋山金光峰寺志明院。役の行者の創建で中興の祖は弘法大師、本尊は不動明王で岩屋山不動教の本山である。淳和天皇の勅願寺で朝廷始め、公卿堂上人はもとより、庶民にも崇拝された。加茂川の源流の一つで水を司る神を祀る。歌舞伎十八番「鳴神上人」の舞台としても有名である。

トレイルコースは標識北山58 のT字路を右折し植林の中の道に入る。コースは谷からは相当上部につけられ、杉の美林が続くが台風の名残の倒木も目立つ。途中の枝沢にはトレイル委員会が、丸木橋（一の橋）を設置しているが五年ほどで架け替えている。

現在の橋は 4 代目である。やがて、谷沿いの小道になるがこの谷を盗人谷と呼ぶ。

奇異な名であるが、落語に「盗人谷」というのがあり、名の起こりを氷室の氷を盗む話で説いているが、真偽のほどは未確認。

標識北山 59 とコース案内板がある場所で、枝谷を渡るが増水時の渡渉には十分に気を付けたい。標識北山 60 で盗人谷は二股に分かれ、トレイルコースは左股に延びている。右股が本谷であり岩屋山志明院への往古の参拝道は、本谷から満樹峠を越え、雲ヶ畑街道の中津川に出ていた。国地院 2.5 万円には破線が入っている

が、現在のはかすかな踏跡が残るのみで、谷の上部は廃道でかつ台風の倒木も未処理で危険である。



盗人谷小峠

標識北山 60 の谷分岐周辺から二の橋跡までは、2018 年の台風 21 号による倒木で、無残なまでの惨状を呈していた。現在は通行出来るように復旧しているが注意して登りたい。倒木帯を通過すると二の橋跡で橋は撤去してあり、数メートル登り一旦は沢に降りてわたる仮設の迂回路となっている。



氷室の害獣侵入防止柵

二の橋跡手前の右斜面の踏跡を登ると、氷室から満樹峠への途中の寺山峠へ至るが、ルート下部は急登で踏跡は不明確である。

二の橋跡から三の橋までは緩やかな登りコースであるが、三の橋から氷室の入口である小峠までは急坂が続くのでゆっくり登ろう。三の橋は腐朽が進んでおり多人数の同時通過は避けたい。



氷室の里風景

途中の標識北山 61 の分岐は直進せず右へとり、ひとがんばりで標識北山 62 の小峠に着く。峠から右へ分岐する踏跡は、先程の二の橋跡からのルートと寺山峠で合流し、満樹峠を経て十三石山へ（約 40 分）で至るルートである。



国指定遺跡 氷室

十三石山（三等三角点 495.5m）、山名は往古、雲ヶ畑村が上賀茂神社に米十三石で山を売渡した事からとも、この山の年貢が十三石だったとかに由来するともいわれている。満樹峠は岩屋山志明院の参詣道として人の往来が盛んだった頃、峠に 1 軒の茶店があり名物饅頭を出していたことから饅頭峠が偏ったという説。また、古書によると一帯に大樹が満ち満ちていたためとも記されている。

こんな伝説もある。牛若丸が鞍馬山で修業中に、所の長者の娘である満樹姫の元に夜な夜な通ったという。そういえば子供の頃に女の子の羽子板に、満艦飾の髪飾りを付けた満樹姫の押絵があったような気がする。



氷室の跡

現在、標識北山 62 の小峠は林道が開削中であるが、小峠からは林道を西に直進すると標識北山 63 の T 字路と出会う。右にとると途中で小峠からのルートと合流し、満樹峠を経て十三石山へのルートにつながる。氷室へは T 字路を左折し害獣防止柵を潜る。害獣防止柵は通行後はしっかりと扉を施錠する事。民家の先に標識北山 64 がある。



杉坂の道風神社

氷室はいつ来ても静かな日本の原風景の様な山里の集落である。氷室の里の由来となった氷室跡への道は、地藏様が祀られた標識北山 65 の辻から山へ向かう林道へ入り、すぐに左上へ登る細いあぜ道に入る。民家の裏手を通り前方の山裾を目指し、山裾から左に降りるあぜ道に、害獣進入防止の電線を外して通り抜け、国指定史跡

の石標が建つ分岐を右手の高みに登った処である。何の変哲も無い窪みが三ヶ所である。通過した電線は元通り掛けておこう。



氷室神社

氷室とは夏に朝廷へ献上するための氷を貯蔵しておく穴室のことで、平安京の造都にともなって六か所の氷室が作られ、この地もその一つであり栗栖野氷室跡といい『延喜式』にも記載された国指定史跡である。民有地の中であり住民の姿を見かけたら一声ことわる等の心使いが欲しい。



往時の京見峠茶屋

氷室跡からあぜ道を降ればすぐに小道となり、約 1.7 km で杉坂の道風神社の前に出る。道風神社は花札の「柳に飛びつく蛙」の図柄にも描かれた、平安時代の三蹟の一人小野道風ゆかりの神社である。道風神社前から府道 31 号線を京見峠方向に登れば、約 1.8 km で「レストランはせがわ」入口の標識北山 67-2 でトレイルコースに合流する。



標識北山 69 からの展望

地蔵様の標識北山 65 まで戻り、舗装道路を進むと左手に氷室神社がある。古びた鳥居越しに参道の奥に見える拝殿は、徳川家康の孫で後水尾天皇の中宮、東福門院の寄進になるもので京都府登録文化財に指定されているが、拝殿には蓋い屋根が設けられ、今は「枯れた」という表現がぴったりの神社だ。

氷室村の産土神でもある。仁徳天皇の時代に額田大中彦皇子へ氷を献上したという、稻置大山主神が氷室大神として祀られている。また、氷室神社は古来痘瘡(天然痘)の神としても信仰されてきた。天然痘が廃絶した我国では、神様もさぞ無聊を困っておられるに違いない。拝殿脇の湧水は小水量ではあるが美味である。



標識北山 69～北山 70

上賀茂への分岐、標識北山 66 を過ぎ舗装道路の登りになる。城山の峠までだらだらと山道とは異なる辛さがある。城山の峠に登りついた所で右上に登る踏跡を辿ると、高度差数十m登れば城山の(三等三角点 479.8m)である。疎林の中に室町時代の城郭(砦)遺跡が散在しており、明智光秀が砦を築いたとの伝承もある。展望は無いが時間があれば寄ってみたい。

舗装道路の登りを嫌うなら、氷室跡から杉坂に向かうあぜ道を少し下り、一つ目の左の枝谷を丸木橋を渡って谷を詰めると、城山の南西尾根の林道に登り付く。林道を左折し城山下の無線アンテナを目標にすれば、城山のトレイルコースに合流することが出来るが、あまり歩かれていないから注意して歩こう。

標識北山 67-1 の三叉路「氷室別れ」までは、左に分岐する小道には入らず舗装道路を降る。ここでトレイルコースは 2 コースに別れる。従来のトレイルコースである京見峠には、標識北山 67-1 の三叉路から左へ約 400m 降り、京都一周トレイルの案内板のある標識北山 68 から右へ急坂の山道を登る。京見峠は往古「洛中一望の中にあり」と称され、京都を望む絶景の地であったが、今は植林が成長したため、かつての絶景は望むべきも無い。また、京への入口の一つとして、多くの旅人が一服した峠の茶屋は残念ながら閉鎖されてから久しい。



前坂の地藏尊



山のレストランはせがわ



はせがわのトイレ棟



標識北山 70 付近



上の水峠からの展望



旧 上の水峠の祠

※このルートは秋の九月二十五日から十一月十日までのマツタケシーズンは通行禁止で、標識北山 68 から更に舗装道路を下り、茶店のある「堂の庭」集落を経て、長坂越え分岐を千束まで下り、東海自然歩道を紙屋川の源流の坂尻まで詰めて、上の水峠に迂回する必要がある。

大正時代に周山街道が開削されるまでは、京見峠を経る長坂越えが丹波から都への入口であり、源平の昔から南北朝時代を経て応仁の乱でも、多くの戦場としての歴史を持つ、ちなみに千束とは墓場という意味で戦乱の歴史を彷彿とさせる。遠い迂回路を廻るのも、このような歴史を持つ道と思えば一興である。

トレイルコースは標識北山 68 からの急坂の山道を登りきると、なだらかな尾根道となり、その先の標識北山 69 からの京都市街の展望は素晴らしい。トイレのある「レストランはせがわ」への分岐、標識北山 70 のコルはすぐ近い。「レストランはせがわ」への往復は約 30 分である。

「氷室別れ」からのもう一つのコースは、標識北山 67-1 を右へ杉坂方面に向かうと、由緒ありげな地藏さんの祠が岩の上に鎮座している。この辺り槍磨岩町という。千束と同様いかにも戦国の名残を思わせる地名である。京見峠から前坂の集落を過ぎ、標識北山 67-2 を左に曲がると、ログハウス「レストランはせがわ」がある。前坂の名水で沸かしたコーヒーを一度は味わいたい。時間があれば是非寄ってみよう。

「レストランはせがわ」にはオーナーの好意により、京都一周トレイルのトレッカー用として、店外の別棟にウォッシュレットトイレが整備された。汚さないようきれいに使用したい。

「レストランはせがわ」の前の標識北山 67-3 から、左の林道を登り詰めると、春には枝垂れ桜も美しい山小屋のコルに登りつく。標識北山 70 で京見峠ルートとの合流地点である。大文字送り火の秘められた参拝場所でもあるが、真っ暗な山道をたどる必要があり、それなりの準備は必要である。

標識北山 70 から林道を進み、左に入る山道の分岐が標識北山 71 である。標識北山 72、標識北山 73、標識北山 74 の標識に誘導され、最後に急坂を下ったところが、標識北山 75、標識北山 76 の「上の水峠」分岐である。

旧来の「上の水峠」は、標識北山 76 から標識北山 77 に至る展望の良いコースであったが、標識北山 77 の手前で、2018 年の台風 21 号により完全に崩落し通行不能になっている。従って、現



沢ノ池夕景



初夏の沢ノ池



沢ノ池秋色



標識北山 85 福ヶ谷林道出合



福ヶ谷林道から愛宕山



高山寺参道秋景

在のトレイルコースは標識北山 75 から標識北山 76 を経ず、反対方向に東海自然歩道の林道を経て、標識北山 79 に迂回している。標識北山 76 は千束に通じる、マツタケシーズン中の迂回ルートの分岐点である。

林道の一部は荒れているが、しばらくで舗装路となる。臨時のトレイル標識に従い、途中、国道 162 号線京都市右京区中川からの菩提の滝林道と合流し標識北山 79 まで迂回する。

崩落路の標識北山 77「上の水峠」には、岩頭に小さな祠があり、中には肩を寄せ合った三体の仏様が祀られ、峠を西に下った「中川」の盆踊歌にも歌われる悲恋物語が伝わっている。人が通らなくなり、京見峠、長坂越えなどと共に歴史からひっそりと消えていく峠道である。標識北山 77 から左へ踏跡を登れば沢山の（三等三角点 516.0 m）に至る踏跡が伸びている。標識北山 77 の峠には標識北山 79 から逆に辿ることが出来る。

標識北山 79 から林道を 1 km 弱登れば標識北山 80 の「沢ノ池」である。「沢ノ池」は豊富な湧水があるのか、大きな沢も流入していないのに、いつも満々とした水を湛えている不思議な池である。

現在は「菩提の滝」の水源にしか役立っていないようだが、元々は嵯峨野地区の灌漑用に作られた人工池で、標高 360m の山中に広々と静まりかえっている。標識北山 80 の林道ゲートから 200m 程の砂浜は、時代劇の映画・テレビのロケ地にも度々利用され、絶好の休憩場所で、一帯が縄文時代の「沢ノ池遺跡」であり、よく探せば石の矢尻等が見つかるかも知れない。

標識北山 81 で林道は終点で、木の根が露出した坂を少し登れば、標識北山 82 の「仏栗峠」である。いつの頃から呼ばれている名であろうか、なんとも思わせぶりの峠名である。今は使われていないが、沢の池からは、仏栗峠下から高鼻川に流れる隧道と、途中から分岐して三宝寺川へと流れる隧道の 2 本があり、鳴滝川経由て嵯峨野の灌漑用水として送られていた。今も峠の下に人知れずひっそりと眠っている。

標識北山 82 を左に行けば「沢山」への道が分岐し、そのまま直進すれば「桃山」、「白砂山を経て鳴滝」へ下る道に至るが、倒木が多く通過は困難が予想される。

トレイルコースは標識北山 82 を右折する。樹林の中の緩やかなルートだが、途中の分岐には入らないように注意。標識北山 83 で鳴滝高鼻町に降りるルートが左に分岐するが、整備されていないので注意。標識北山 84 では直進せずに左折する。やがて急降下の岩盤の下りになり、雨裂で深くえぐれたルートもあるので足元には十分に気を付けよう。台杉の植林の道を抜ければ、標識北山 85



の舗装された福ヶ谷林道分岐に降りつく、林道を 20m程登れば道路右にきれいな水場がある。

分岐の未舗装の林道を下れば、鳴滝高鼻町に出られるが林道は途中までで、林道終点からはおびただしい風倒木と何度も渡渉を強いられる悪路で現在は通行不能である。

トレイルコースは標識北山 85 から舗装林道を降る。逆コースの場合は、高鼻町に向かう未舗装林道に沿うように、台杉の植林端にトレイルコースの山道が登っている。

京都一周トレイル北山コースは、よく手入れされた真っ直ぐに延びた杉の美林の中を歩くルートが多い。この杉が和風建築資材に囑望される北山磨き丸太に加工されるのである。応永年間に生産が始められたと伝えるが、ことに中川地区では特に粒子の細かい「菩提の滝」の砂を採取し、冬季に姉さん被りに紺がすりのもんぺ姿の女性が、素手で丹念に磨き上げて仕上げるのである。北山の冬の風物詩で川端康成の「古都」の舞台でもある。

北山杉の植林でプラスチックの小片を巻きつけた木に気がつく、この杉が人工的にシボを付けた床柱に加工されて高級建材となる。

標識北山 86 を経て、急坂の舗装林道を降れば槇ノ尾で、標識北山 87 は国道 162 号に架かる白雲橋の脇である。国道を右折し橋を渡れば約 250m で榎ノ尾の高山寺に至る。

高山寺、真言宗御室派の単立寺院であり、いわずと知れた鳥羽僧正の国宝「鳥獣人物戯画」はじめ、数多くの貴重な美術工芸品を所有する。度々の戦乱でほとんどの建物は後年の再建であるが、明恵上人の住居跡と伝えられる石水院は、鎌倉時代に建たてられたもので国宝に指定されており、寺域全体が国の史跡に指定され、もちろん世界文化遺産にも登録されている。

標識北山 87 から国道を左折し約 200m で JR バス榎ノ尾停留所で、さらに国道を約 10 分も登れば高尾バス停で市バスも乗り入れている。

「所要時間参考」

山幸橋北山 56 (25 分← →35 分) 小屋跡北山 60 (25 分← →30 分) 小峠北山 31 (10 分← →10 分) 氷室、地蔵の辻北山 65 (35 分← →35 分) 氷室別れ北山 67

※ 氷室別れ北山 67-1 (15 分← →10 分) 京見峠分岐北山 68 (15 分← →20 分) 標識北山 70

※ 氷室別れ北山 67-1 (15 分← →10 分) レストランはせがわ北山 67-3 (10 分← →15 分) 標識北山 70 (40 分← →35 分) 上水峠北山 75 (15 分← →20 分) 林道北山 79 (15 分← →15 分) 沢ノ池北山 80 (15 分← →20 分) ほとぐり峠北山 82 (15 分← →15 分) 北山 84 分岐 (30 分← →20 分) 福ヶ谷林道分岐北山 85 (40 分← →30 分) 白雲橋北山 87 (5 分← →5 分) 榎ノ尾バス停北山 88

※山幸橋までは、北大路烏丸交差点 東約 50m もくもく号乗り場 (9 名乗りのジャンボタクシー) 利用。問い合わせはヤサカ自動車上堀川営業センター 075-491-02.0.51

山幸橋～高雄間のトレイルコース詳細は「京都一周トレイル北山西部」地図を参照してください。

地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは

京都市産業観光局 観光 MICE 推進室 (TEL075-746-2255)

kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/ 京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください